



No.5 7

The University of Tokyo Forests News

科学の森ニュース

March 10, 2012

発行：東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林

銘木市で演習林産丸太に高評価

北海道演習林

2012年1月20日（金）、旭川で銘木市が開かれました。色や木目が特に優れた希少な木材は銘木と呼ばれ、専門の木材市場で取引されます。旭川の市では主に広葉樹を扱っています。広葉樹優良木の育成に取り組む北海道演習林では、ウダイカンバとハリギリの丸太計46本（材積44m³）をこの市に出品しました。

会場では丸太が1m³当り20万円以上の高額で落札されると、進行役から「大台です」の声がかかって拍手が起こります。演習林産のウダイカンバ丸太は、39本中23本が「大台」の拍手を頂き、樹種別落札単価の上位23位までを占めました。最高単価は180万円/m³と近年にない高評価でした。7本を出品したハリギリも例年にない高額で落札され、最高単価（72万円/m³）はハリギリの史上最高値となりました。



単価180万円/m³で242万円の値が付いたウダイカンバ丸太

研究科技術職員合同による チェーンソー研修会開催

秩父演習林

2011年11月14日(月)～16日(水)に、大学院農学生命科学研究科の「技術職員業務運営・組織検討委員会」機械グループによるチェーンソー研修会が秩父演習林において開催され、生態調和農学機構、牧場、技術基盤センター、水産実験所、演習林の技術職員19名が参加しました。今回の研修会は、技術職員が主体となって開催する点、研究科内の異なる附属施設を横断的に開催する点で、初めてのものでした。チェーンソーの技術を習得するだけでなく、お互いの業務や安全管理についても情報を交換し、研究科内の技術業務のネットワーク化に向けて、礎となる研修を行うことができました。



参加者全員で伐採実演木の切り株をチェック

千葉演習林で「秋の研修会」を開催

千葉演習林

2011年11月16日(水)、千葉演習林で恒例となっている「秋の研修会」を開催しました。研修会には、ボランティア会 Abies から3名の参加を頂きました。午前中、当演習林教員の廣嶋先生による J-VER (日本における森林認証に基づくオフセット・クレジット) についての講義、千葉演習林に関連する研究教育の成果報告、安全衛生に関する話し合いなどが行われました。午後は、鴨川消防署の職員に来ていただき、清澄学生宿舎を

主な対象とした総合消防訓練、人工呼吸などの緊急救命活動の実地訓練を行いました。



「大丈夫ですか？」と声をかけながら人工呼吸を行う演習林職員

公開講座「鳥の巣箱をつくろう！」を開催

樹芸研究所

2011年12月4日(日)、樹芸研究所の青野研究林で公開講座「鳥の巣箱をつくろう！」を開催し、近隣から小学生と保護者36名の参加がありました。公開講座では、林内でバードウォッチングをした後、作業所に戻って巣箱づくりに挑戦しました。巣箱づくりは、子供たちが主役。ノコギリやカナヅチの使い方をお父さんお母さんに教わりながら、少しずつ仕上げます。最後に、ペイントペンで好きな絵を描いて、オリジナル巣箱の出来上がり。参加者の皆さんにとって、今回の鳥の巣箱づくりが、身近な自然、特に、森林や鳥を好きになるきっかけとなれば嬉しいです。



親子で巣箱づくりに挑戦！

森林の豊かさという、つい樹木に目が向きがちですが、森林の中でとりわけ高い多様性をもつ分類群は葉食性昆虫です。例えば、葉食性の鱗翅目昆虫（ガの仲間）だけでも日本産の維管束植物をはるかに上回る種数が報告されています。そのため、葉食性昆虫の種多様性を調べることは、森林の生物多様性の保全を考える上でも重要です。しかし、葉食性昆虫の高い種多様性がどのように形成されてきたのかについてはまだ十分にわかっていません。これを説明する有力な仮説として、樹木の多様化が葉食性昆虫の種多様性を高めている、という考え方があります。この仮説が正しければ、2種の樹木が遠縁になるほど、葉食性昆虫相の違いも大きくなることが予想されます。この仮説を検証するためには、葉食性昆虫相を網羅的に調査する必要があります。

千葉大学群集生態学研究室と秩父演習林では、葉食性昆虫の多様性の調査を始めています。秩父演習林は樹木の多様性が高いため、葉食性昆虫の研究に適していると考えられます。平成23年度はカエデ属樹木を対象として、まず、演習林の技術職員が中心となって樹木の選定・調査を行い、6月～8月に千葉大学グループが中心となって葉食性昆虫を採集しました。採集した昆虫は、個体ごとに容器に入れ、幼虫は成虫になるまで飼育してから種を同定しました。平成23年度の調査では、鱗翅目・甲虫目・半翅目・膜翅目・直翅目・ナナフシ目という、6目の葉食性昆虫が採集されました。これまでカエデ属樹木を寄主とする報告がなかった葉食性昆虫も数多く見つかりました。今後、さらに解析が進めば、カエデ属樹木の多様化と葉食性昆虫の多様性の関係が明らかになることが期待されます。このように、葉食性昆虫の多様性を調べることによって、森林の豊かさをこれまでとは違う角度から見つめ直すことが出来ると考えています。



タテスジシャチホコ：カエデ属樹木を寄主とする
(写真提供：中臺亮介)

演習林のイベントダイジェスト 詳細はホームページをご覧ください。各演習林にお問い合わせください。

| | | |
|---------------------------------|--|---------------------------------------|
| 2011年11月 | 5日 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう(巣箱作り)」◆(千葉) | 20~23日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ1」☆(樹芸) |
| | 5~6日 公開講座「ナラ枯れの実態と防除法(講義と野外実習)」(秩父) | 25~27日 体験ゼミ「ダムと土砂と海」☆(生態水文) |
| | 10日 瀬戸市との地域交流協定調印式(生態水文) | 25~27日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆(樹芸) |
| | 10~11日 平成23年度技術職員等試験研究・研修会議(生態水文) | 27~29日 体験ゼミ「伊豆に学ぶ2」☆(樹芸) |
| | 12日 サポーター養成講座「秩父演習林と秩父地方の歴史」◆(秩父) | 29日~3月2日 体験ゼミ「雪の森林に学ぶ~北海道演習林」☆(北海道) |
| | 14~16日 業務運営・組織検討委員会機械グループチェーンソー研修◆(秩父) | 3月 |
| | 19~20日 総合科目「森のエネルギーを使いこなす」☆(富士) | 5~7日 平成23年度技術職員研修「伊豆に学ぶの作り方」☆(樹芸) |
| | 22日 富良野地区合同ワークショップ | 8~13日 体験ゼミ「企画系さらに伊豆に学ぶ」☆(樹芸) |
| | 「富良野地方の美しい農山村景観維持のために」(北海道) | 4月 |
| | 22日 富良野地区合同ワークショップ現地検討会「上富良野町のエコツーリズム・グリーンツーリズム・アグロツーリズム」(北海道) | 7日 鴨川市交流事業「野鳥の巣箱をかけよう」(巣箱観察)◆(千葉) |
| | 25~26日 秋の一般公開(千葉) | 21日 東大教職員向け特別ガイド「春の彩りを訪ねて」◆(富士) |
| | 26日 鴨川市共同事業「東大キャンパスツアー」◆(千葉) | 下旬 温室特別公開日1(樹芸) |
| | 26日 秋の休日公開(田無) | 下旬 温室特別公開日2(樹芸) |
| | 30日 利用者説明会◆(秩父) | 5月 |
| 12月 | | 11日 生態水文学研究所利用者研究集会◆(生態水文) |
| 3~4日 秋の一般公開(千葉) | | 12~13日 春の自由見学日(秩父) |
| 4日 野鳥の巣箱を作ろう(樹芸) | | 中旬 神社山自然観察路一般公開(北海道) |
| 4日 秋の休日公開(田無) | | 31~6月3日 体験ゼミ「生態系としての森林景観と人間の感覚」☆(北海道) |
| 10~11日 総合科目「森のエネルギーを使いこなす」☆(秩父) | | 6月 |
| 10~11日 総合科目「森をはかる」☆(富士) | | 2~3日 総合科目「ダムと森林」☆(生態水文) |
| 11日 影森祭(秩父) | | 6~8日 関東甲信越大学演習林技術職員研修◆(富士) |
| 21日 温室特別公開日(樹芸) | | 7日 東大教職員向け特別ガイド北海道演習林見学会◆(北海道) |
| 2012年2月 | | 8日 富良野地区合同ワークショップ |
| 3日 森林博物館資料館一般公開(千葉) | | 「富良野地方の美しい農山村景観維持のために」(北海道) |
| 4日 東大教職員向け特別ガイド「冬の散歩みち」◆(富士) | | 9~10日 演習林交歓会2012◆(富士) |
| 19~23日 総合科目「伊豆に学ぶプラス」☆(樹芸) | | 未定 公開セミナー(北海道) |

凡例・・・無印：一般向け 星：学生向け 三角：その他

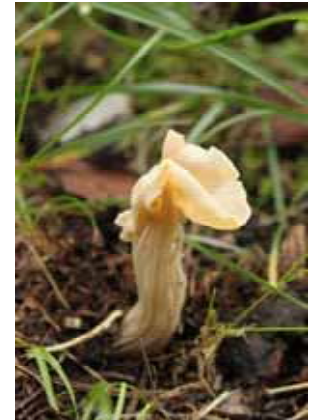
ノボリリュウタケ

チャワンタケ目 ノボリリュウタケ科

学名：*Helvella crispa* (Scop.) Fr.

富士癒しの森研究所

辰年の2012年にふさわしいキノコ、「昇り竜茸」です。漢字にしてみると、なるほど！と膝を打ちたくなる形です。中国からの本草書の影響でしょうか、すでに江戸時代中ごろの本には『昇龍芝(しょうりゅうし)』として紹介されています。一方、英語圏では **Saddle Fungi** などと呼び、このキノコの上の部分を「鞍」に見立てています。呼び名には、それぞれの文化が反映されており、興味深いですね。このキノコは、北半球の温帯に広く分布しますので、案外、みなさんの近くでも見つかるかもしれません。見つかったら、運気は昇り調子・・・かも!?



コラム

林業の利益性を考える

千葉演習林 當山 啓介

日本の主要な林業樹種であるスギの植栽面積は国土の10%以上に及ぶなど、林業はかつて相当大的な産業でした。しかし現在、「林業は儲からない」というのが日本では定説です。ただ、事情はもう少し複雑です。土地の肥沃さ、道路からの距離や傾斜の程度といった「その森林の条件」、有力な伐採搬出業者や丸太需要者（製材工場等）の有無など「その森林の属する地域の条件」など、諸条件の違いによって収益性は大きく異なります。また、木が収穫できるようになるまで早くても数十年かかるため、金利が高ければ初期に投じた費用が膨れ上がり、利益を飲み込んでしまいます。数%の利率（内部収益率など）を見込む必要のある企業体から見れば林業を新たに始めても収益はほとんど見込めませんが、逆に、利子などほとんどない普通預金や定期預金と比べれば、有望と言っても差支えない条件を持つ森林も存在します。このように、錯綜した条件下で思惑（林業への期待度）の異なる人が林業について語ると、議論がかみ合わない恐れもあります。

林業経営研究では、こうした事情を整理しつつ、収穫方法などにおいて採用すべき方針や効果的な林業政策を検討します。最近の林業は、潜在的な成長産業として位置づけられたり、生物多様性の保全等に積極的に寄与する経営方法が模索されたりしていて、それらを経済活動の中で実現させるための林業経営研究は、古典的ながら現代的なテーマです。

参考：Toyama, K. (2011) The Effect of Simultaneous Harvesting of Adjacent Plantation Stands on Acceptable Cutting Age. *Journal of Forest Planning* 16:233-243.

科学の森ニュース (The University of Tokyo Forests News)

第57号 (No.57)

発行日 平成24年3月10日

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

発行人 白石則彦

東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林広報情報委員会

編集人 後藤 晋

TEL 03-5841-5497 FAX 03-5841-5494

E-mail mori2010@uf.a.u-tokyo.ac.jp